

Title	Immunohistochemical expression of Ki67 and p53 by cells in odontogenic epithelial islands in the walls of dentigerous cysts and keratocystic odontogenic tumors
Author(s)	奥平, 紳一郎
Journal	, (): -
URL	http://hdl.handle.net/10130/3612
Right	

氏名	奥平 紳一郎
学位	博士 (歯学)
学位記番号	第2072号 (乙 第783号)
学位授与年月日	平成26年 11月12日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項
論文審査委員	主査 井上 孝 教授 副査 片倉 朗 教授 副査 山本 仁 教授 副査 松坂 賢一 准教授
学位論文名	Immunohistochemical expression of Ki67 and p53 by cells in odontogenic epithelial islands in the walls of dentigerous cysts and keratocystic odontogenic tumors

学位論文内容の要旨

1. 研究目的

顎骨内病変である含歯性嚢胞は発育性嚢胞として知られ、同じく角化嚢胞性歯原性腫瘍はかつて発育性嚢胞として分類されていたが後に腫瘍性病変として分類された病変である。この2つの疾患においてしばしば嚢胞壁に歯原性上皮島が観察される。本研究の目的は含歯性嚢胞および角化嚢胞性歯原性腫瘍の嚢胞壁内に存在する歯原性上皮島を構成する細胞の細胞増殖活性および癌抑制遺伝子であるp53の発現を検索することである。

2. 研究方法

2011年4月から2013年3月までに東京歯科大学千葉病院口腔外科および水道橋病院口腔外科で摘出あるいは切除された含歯性嚢胞あるいは角化嚢胞性歯原性腫瘍と病理組織学的に診断されたものを全検体数に対する割合および顎骨内のエックス線透過性病変に対する割合を統計的に検索した。さらに、含歯性嚢胞あるいは角化嚢胞性歯原性腫瘍と診断された病変のうち炎症性細胞診浸潤のない検体それぞれ20例を抽出し、Ki67およびp53を用いた免疫組織化学的染色を行った。そして、1切片あたりの歯原性上皮島の数、歯原性上皮島1つあたりの細胞数、Ki67陽性細胞率およびp53陽性細胞率を計測した。

3. 研究成績および結論

全 3360 検体中含歯性嚢胞と病理診断されたものは 457 例、13.6%であり、角化嚢胞性歯原性腫瘍は 73 例、2.2%であった。そして、顎骨内エックス線透過性病変中の含歯性嚢胞の割合は 37.7%で角化嚢胞性歯原性腫瘍の割合は 6.0%であった。そして、全含歯性嚢胞における歯原性上皮島が観察された症例は 98 例、21.4%で、全角化嚢胞性歯原性腫瘍において歯原性上皮島が観察された症例は 26 例、35.6%であった。歯原性上皮島 1 つあたりの構成細胞数は含歯性嚢胞が 29.03 ± 0.66 個、角化嚢胞性歯原性腫瘍が 47.84 ± 0.56 個であった。Ki67 陽性細胞率は含歯性嚢胞が $2.92 \pm 0.01\%$ 、角化嚢胞性歯原性腫瘍が $6.57 \pm 0.03\%$ であった。p53 陽性細胞率は含歯性嚢胞が $0.41 \pm 0.31\%$ 、角化嚢胞性歯原性腫瘍が $0.80 \pm 0.83\%$ であった。歯原性上皮島が存在する症例ではその増殖による再発の可能性も考慮する必要があることが示唆された。

最終試験の結果の要旨および担当者

報告番号	乙 第783号	氏名	奥平 紳一郎
最終試験担当者	主 査	井上 孝	教授
	副 査	片倉 朗	教授
		山本 仁	教授
		松坂 賢一	准教授
最終試験施行日	平成26年10月10日		
試験科目	臨床検査病理学		
試験方法	口頭試問		
試験問題	主題ならびに関連問題		
<p><u>結果の要旨</u></p> <p>本審査委員会は主題ならびに関連問題について最終試験を行った結果、十分な学識を有することを認め、合格と判定した。なお、英・独2カ国語につき試験を行った結果、合格と認定した。</p>			

学位論文審査の要旨

顎骨内歯原性嚢胞性疾患における裏装上皮の免疫組織化学的検索は数多く研究されているが、嚢胞壁内に存在する歯原性上皮島に関する研究はほとんど見られない。本研究は腫瘍として分類されている角化嚢胞性歯原性腫瘍と発育性嚢胞である含歯性嚢胞の歯原性上皮島の細胞増殖能である Ki67 と癌抑制遺伝子である p53 について検索したものである。

本審査委員会は、審査委員から 1. 歯原性上皮島の病態的意義、2. Ki67 の陽性率について、3. p53 野生型と変異型、等について口頭試問がなされた。1 について歯原性上皮島の一部が腫瘍性あるいは発育性に増殖して病変が成り立つ可能性がある、2 について Ki67 の陽性率が高いほど腫瘍性の増殖である可能性が高い、3 について p53 の免疫組織化学的染色において通常では野生型はほとんど発現せず発現している細胞はほとんどが変異型である、等の回答を得た。また、審査委員は論文内の文章表現の確認および単語の妥当性などの指摘がなされ、修正するよう求めた。

本研究で得られた結果は、今後の歯学の進歩、発展に寄与するところ大であり、学位授与に値するものと判定した。